



～ 仲間と共に未来を切り拓く人財へ～

少子化・情報化・地域の関係性の希薄化などを原因に、現代の子供たちが人と関わりをもつ機会は少なくなっています。その結果、コミュニケーションを取ることや人と関わることに對して消極的な子供が増えていいます。しかし、多様性溢れる社会において様々な課題を解決していくためには、個人が独自性を発揮しながらも他者と調和していくことが必要です。そこで、子供たちには、多くの仲間と関わる中でお互いに尊重し合い、それぞれの考えや個性の違いにとらわれず調和の取れた関係が築けることを感じて頂きたいと考え本事業を構築しました。

参加対象

岐阜市内と岐阜市近郊の小学校5・6年生100名

男女比率（男子53名：女子47名）学年比率（5年生64名：6年生36名）

事業の目的

子供たちに価値観の違う人とも認め合い高め合える人になって頂くため、共同生活を通じて仲間と尊重し合い、考えや個性の違う相手とも調和の取れた関係が築けることを感じて頂く。

目的達成のために必要な要素と選択した手法

- ・ お互いのために行動し、その姿を認め合う

キャンプ … 仲間との衣食住を通じ互いに尊重し合う

- ・ 一つのことに取り組む中で自発的に相手のために行動する

音楽体験 … 個性を発揮しながら全体の調和を感じる

- ・ 誰かのために力を発揮することの大切さを知る

振り返り … 学んだことを事業後に繋げる

【事前説明会】新たな出会い

7月2日(日) 10:00~12:00(第1部) 13:00~15:00(第2部) 旧徹明小学校体育館

～事前説明会の流れ～

- ・事業概要及び趣旨説明…事業の内容を知る
- ・チームごとの自己紹介…仲間のことを知る
- ・チームフラッグの制作…共同で作業をする



事業への期待感

「こんなことをするんだな」
「この仲間たちと活動するんだな」

仲間との初めての共同作業はチームフラッグの制作です。お互いの名前を覚え事業当日に向けて気持ちを高めました。

関心をもって聞けるよう、子供たちへの質問を交えながら事業概要について説明しました。

【事業当日：1日目】仲間との共同生活でお互いのために行動

7月26日(水) 9:00~22:00 岐阜ファミリーパークキャンプ場・あじさい広場・炊事場

～1日目の流れ～

- ・世界がもし100人の村だったら
- ・すごろくトーキング
- ・テント張り
- ・野外炊事・後片付け
- ・キャンプファイアー

～世界がもし100人の村だったら～



「世界がもし100人の村だったら」という想定で、世界の言語の種類や人口分布などの現状を学び、自分が暮らす日本との違いを感じました。

- ・世界・日本・岐阜
様々な「違い」にフォーカスします。
- ・仲間との考え方の「違い」を知り、自分と違う考え方があることが当然という前提から共同生活を始めます。

～すごろくトーキング～

好きな食べ物や教科など、簡単なテーマトークから様々な考え方に触れ、人それぞれに考え方があり、自分とは違う考え方もあると理解しました。



1日目のまとめ

一人ではできないことをチームの皆で協力して行い、自分が相手の役に立てたこと、仲間には力を貸してもらったことを感じる。

～テント張り～

「僕は支柱を支えるね」「私はペグを打つよ」自分たちで決めた役割を果たす中で、チームの仲間とお互いのために行動し、テントを張りました。



～野外炊事～

野外炊事でも役割分担をしてチームの中で意見を交わしながらカレーライスを作りました。徐々に連携も良くなり、チームとしてのまとまりも感じられるようになりました。



お互いを尊重する気持ち
「仲間って大切な存在だな」

ポイント① ～役割分担と振り返り～

テント張りや野外炊事では事前に役割分担をしました。作業後はチームの仲間と振り返り、互いに感謝の言葉を伝え、自分だけでなく仲間の頑張りにも目を向けました。



～参加者の感想～



「自分ではそう思っていなかったけれど、振り返りの時に色んな子から助かったと言われたので、仲間のために役に立てたと感じました。」

「みんながやりたくなさそうなことを進んでできたし、私にできないことをチームの子がやってくれたから仲間のことを大切な存在だと感じました。」

【事業当日：2日目】音楽を通じて100人のまとまりを感じよう

7月27日(木) 9:00~22:00 岐阜市少年自然の家・岐阜ファミリーパーク体育館

～2日目の流れ～

- ・音楽に触れる1日
- ・「上手下手じゃない!」自己表現としての音楽に親しむ
- ・楽器を作って自分たちで装飾
- ・パートごとの練習と全体リハーサル
- ・ファミリーパーク体育館でのセッション

- ・チーム内で尊重し合った子供たち。
- ・2日目は範囲を拡げて100人の仲間と共に全員で音楽を創り上げます。
- ・音楽を通じて個性を発揮しながら一つにまとまることで全体の調和を感じます。



練習する前にプロの講師陣の演奏を聴くことでセッションに向けて気持ちが高まりました。



作った楽器の装飾にも個性が溢れ、同じ種類でも独自の装飾で自分だけの楽器になりました。



演奏パートごとに練習を重ねました。お互いの音を聴きながら演奏し、徐々に心が一つになりました。



本番は体育館での演奏会。100人ががまとまり全体の調和を感じる演奏になりました。

2日目のまとめ

共同生活の中で尊重し合った
仲間とだからこそ生まれる全体のまとまり



価値観の違いにとらわれず
調和の取れた関係が生まれる
「こんなに多くの人とまとめられるんだな」



ポイント② ～音楽で調和を感じる～



本事業では、音楽を通じて子供たちに全体の調和を感じてもらいました。音楽は個々の個性を発揮しつつも仲間との一体感を感じやすく、能力差の影響も少ないためです。また、曲を下支えする役割のリズム楽器を採用し、子供たちは演奏の中でお互いに支え合って音楽を創り上げることができました。

～参加者の感想～



「色々な考えの子がいたけど、一人ではできない演奏を全員で大きなものにできた。」

「自分と考えが違って、一緒に楽しく取り組んで、協力して一つになれたと感じた。」



【事業当日：3日目】明日に向けて～3日間の振り返り～

7月28日(金) 9:00～15:30 岐阜市少年自然の家・岐阜ファミリーパークキャンプ場

～3日目の流れ～

- ・仲間と共に過ごした3日間の振り返り
- ・チームごとに3日間を一言に表現して発表
- ・Tシャツにみんなで寄せ書き
- ・初日に張ったテントを全員で片付け

- ・2日間で互いに尊重し合い全体で調和することができた子供たち。
- ・最終日は事業全体を振り返ります。
- ・心と心を繋ぐのに大切なことは何だろう？
- ・明日からどんなことを心がけたら良いだろう？



～振り返り発表～

共同生活で大切にしたいと感じたことを一言で紙に書き、チームごとに発表しました。仲間と過ごした時間を振り返りお互いのために行動することの大切さを改めて感じました。また、最初はまとまりを欠いたチームが、事業を通じて一つにまとまることのできた体験から、考え方が違う人とも調和の取れた関係が築けると感じることができました。



～テント片付け～

最後はテントを片付けました。心を繋いだ仲間との作業は初日に比べて連携も良く、全てのチームが目標の時間内で片付けを終えることができました。



～寄せ書き～

お互いのTシャツに寄せ書きをしました。3日間を共に過ごした仲間と時間を忘れて書き合ったTシャツは宝物に。

3日目のまとめ

お互いのために行動すること
自分以外の誰かのために行動すること



価値観の違いにとらわれず
心と心を繋ぐことができる
「今後も色々な人と仲良くなるう」

【その他にもこんな体験をしました】



キャンプファイアー

キャンプファイアーが初めてという参加者もいて、1日活動した疲れも忘れて楽しく盛り上がりました。



ラジオ体操

仲間と迎える朝は共同生活を実感するひと時でもあります。最初は眠気と闘いながらでしたが、共に活動する仲間とのラジオ体操は新鮮に感じました。



早朝の構内美化

自然の家からファミリーパーク体育館に向かう道沿いの雑草を抜きました。利用させてもらった場所に対する感謝も込めて懸命に取り組みました。

参加者の声～アンケートより～

Q: 今回の事業で、色々な考えの子がいることを感じましたか?

A: 96%の参加者が「色々な考えの子がいる」と感じたことが分かりました。

～理由～

- ・私だけの考えでなく人それぞれに考えがあることが分かったから。
- ・自分とは違う考えの人がたくさんいたから。
- ・リーダーとしてグループの皆をまとめることの大変さを感じたから。

※ 岐阜市内と近郊の小学生というとほぼ同質の子供たちとの見方もありますが子供たち同士で考えの違いを感じたことが分かりました。



Q: 今回の事業で、一緒にすごした仲間のことを大切な存在だと感じましたか?

A: 97%の参加者が「仲間のことを大切な存在だ」と感じたことが分かりました。

～理由～

- ・自分一人ではできないことがたくさんあるから。
- ・知らなかった人とも色々な場面で協力することができたから。
- ・チームのメンバーが、たくさん僕のことを考えてくれたから。

※ 共同生活の中でお互いのために行動した結果、仲間のことを大切な存在だと感じられたことが分かりました。



Q: 今回の事業で、自分と違う考えの子とも心を繋ぐことができると感じましたか?

A: 88%の参加者が「心を繋ぐことができる」と感じたことが分かりました。

～理由～

- ・自分と違う考えを合わせると良いアイデアが生まれるし仲良くなれるから。
- ・今回の合宿で、違う考えの子と仲良くなれたから。
- ・考えが違って、話してみると共通点が出たから。
- ・班に色々な考えの子がいたけれど最終的には協力できたから。

※ 考えの違いに直面しながらも、その違いを否定せず心と心を繋ぐことができると感じていることが分かりました。



**お互いのために行動することで仲間と尊重し合うことができ
考え方の違う人とも心と心を繋ぐことができると感じて頂くことができました。**

保護者の声～ヒアリング調査より～

Q: 今回の事業に対するご意見・ご感想をお聞かせください。

また、事業後のお子さんに変化があったと感じられることがあればお聞かせください。

A: 以下のようなご意見を頂戴しました。

- ・高学年になりとにかく色々なことをやりたいと積極的で、そのやる気を「とても満足」という形で満たして頂けた。学校では体験できない事だと思う。3日間で大人になって帰ってきたような気がする。
- ・この体験合宿では、初めて会う子との共同生活を通じて、実際の人間関係の中で心と心を繋ぐという経験でき、とても良い体験ができたと思う。新しい友達と色々なことをし、やってきたという自信ができたようだ。中学・高校・大学・社会へ出ていく中で1番大事なことを学ばせて頂いたように思う。
- ・帰ってからは自分から何事にも取り組めるようになった。自主的にお手伝いするようになった。
- ・繋がりとえばSNSとなりがちな子供たちの世代にとって、初めて出会った仲間との生活の中で喜怒哀楽を共にし、共感することの大切さを学べる絶好の機会であったと感謝している。

人との関わりの中で心の繋がりをを感じる機会になったとの評価を頂きました。

本事業で実現した子供たちの姿

お互いのために行動する → 相手を尊重する気持ちが生まれ心と心が繋がる
→ 考えや個性の違う仲間とも調和の取れた関係が生まれると感じる

本事業に参加した子供たちに期待する事業後の姿

自ら考えて誰かのために行動する → 様々な人々と心の繋がりを築く
→ 価値観の違う人とも認め合い高め合える人になる

多様な価値観が存在する社会で
仲間と共に未来を切り拓く人財へ



まとめ

子供たちは、仲間との共同生活でお互いのために行動し、尊重し合って心と心が繋がる体験をしました。そして、考え方の違う仲間とも調和の取れた関係が生まれることを感じました。

子供たちには、自ら考えて誰かのために行動できる人になって頂きたい。それは、自分以外の誰かのために行動できるからこそ他者から尊重され、心と心を繋ぐことができるからです。お互いに尊重し合うことができれば、違う価値観をもっていたとしてもお互いに認め合うことができます。そして、自分と違う価値観も受け止めることで考え方の幅が広がり高め合うことができるのです。本事業に参加した子供たちが価値観の違う人とも認め合い高め合える人となり、多様な価値観が存在する現代の社会で、仲間と共に未来を切り拓く人財になって頂けることを期待します。

本報告書をご覧頂き、個人が独自性を発揮しつつも調和の取れた関係を築くために必要な、仲間と尊重し合い心と心を繋ぐことのできる「繋がる心」をもった青少年の育成に繋げて頂ければ幸いです。

最後に、行政・企業・団体及びボランティアスタッフなど、本事業においてひとかたならぬご協力を賜りましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

公益社団法人 岐阜青年会議所 繋がる心育成委員会 委員長 岩田貴宏

発行 公益社団法人 岐阜青年会議所 2017年度 繋がる心育成委員会

副理事長 野々村 彰 文

室長 伊藤 貴章

委員長 岩田 貴宏

副委員長 浅野 彰成

委員 相宮 啓司

委員 白木 佳静

委員 長谷川 淳

子安秀宜 笹本直樹 長谷川真也

大洞秀一 小野木真孝 篠田真生

瀬川典秀 杉浦孝俊 篠田真生

安藤真実 岩田 漢 篠田真生



Junior Chamber International Gifu
公益社団法人 岐阜青年会議所